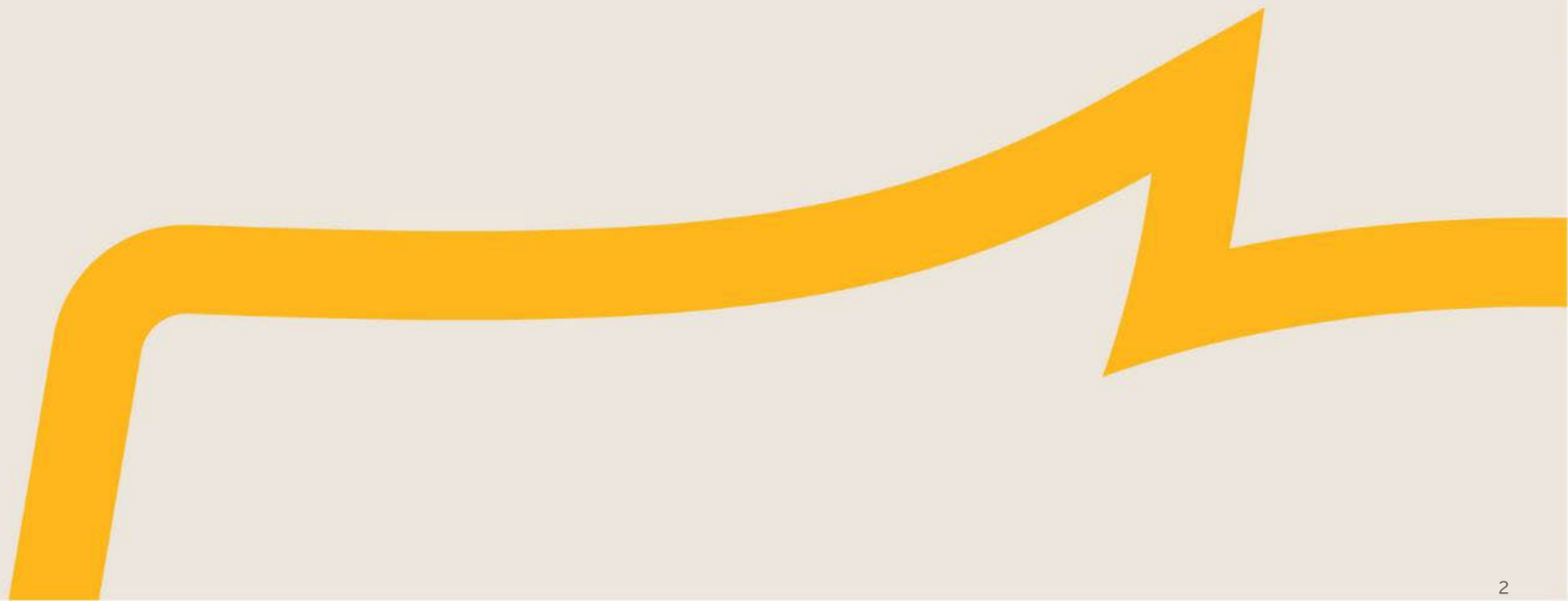


2023年3月期 第3四半期 決算短信補足資料



2023年3月期 第3四半期決算概況



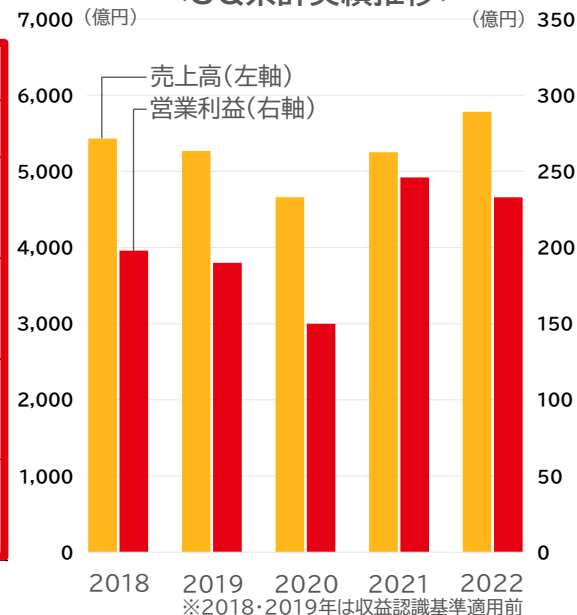
2023年3月期 第3四半期 サマリー

- ・前年同期比では水産・食品とも販売堅調で増収の中、コスト上昇厳しく営業利益は5%減益も、11月に想定した減益幅より改善傾向。
- ・一方、上場子会社日水製薬売却に加え政策保有株式の売却を進めた結果、南米漁撈事業の減損を吸収し四半期純利益は約12%の増益。

	2022年3月期 第3四半期	2023年3月期 第3四半期	対前年同期比 増減	
			増減	増減率(%)
売上高	5,252 億円	5,783 億円	530 億円	10.1
営業利益	246 億円	233 億円	▲12 億円	▲5.2
経常利益	293 億円	259 億円	▲33 億円	▲11.5
四半期 純利益	166 億円	185 億円	19 億円	12.0

2023年3月期 計画 (11/2公表)	進捗率
	(%)
7,500 億円	77.1
225 億円	103.8
255 億円	101.8
200 億円	92.9

<3Q累計実績推移>



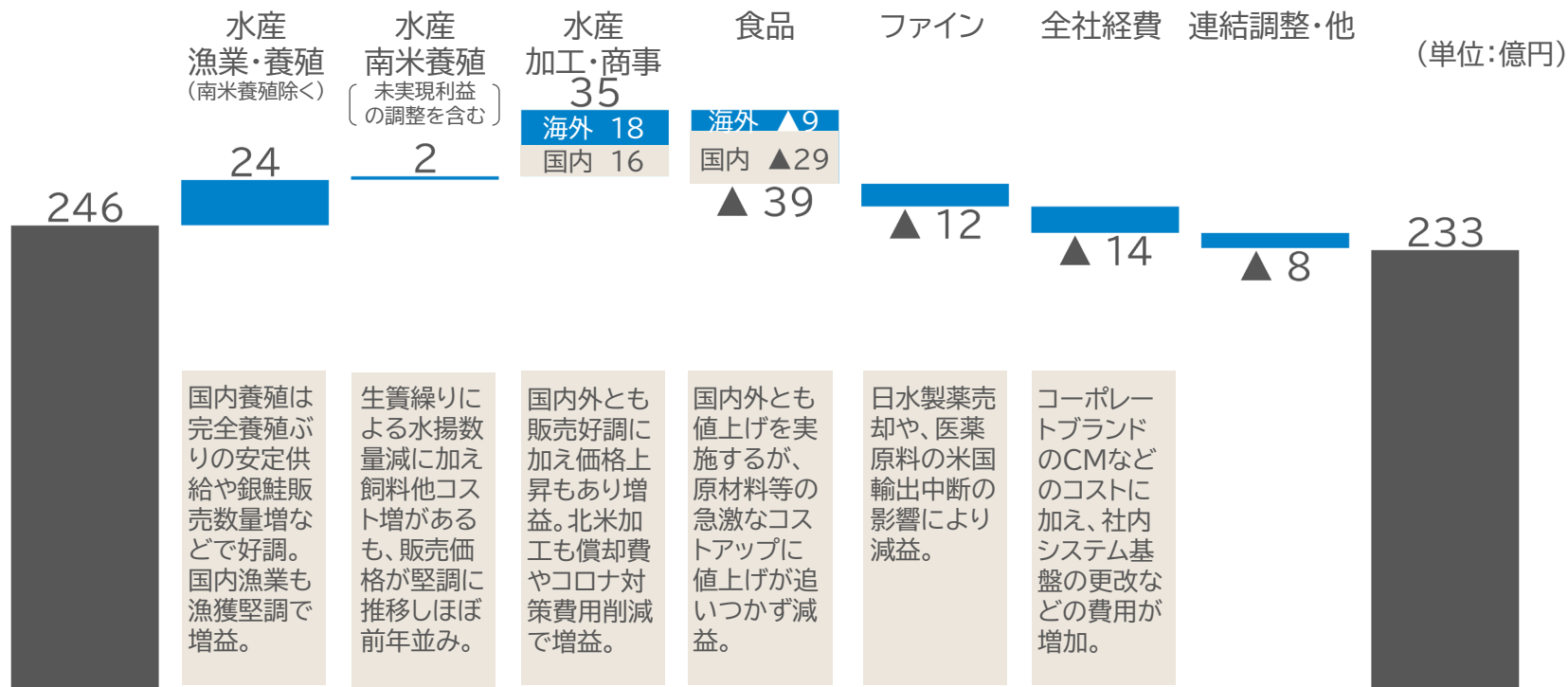
2023年3月期 第3四半期 セグメント別概況

為替影響を含め水産・食品が大幅増収。
 ファインケミカルは日水製薬売却による減収(約30億円)が影響。

(単位:億円)	2022年3月期 第3四半期	2023年3月期 第3四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	率(%)
売上高	5,252	5,783	530	10.1
水産事業	2,179	2,488	309	14.2
食品事業	2,501	2,855	354	14.2
ファインケミカル事業	243	212	▲31	▲12.9
物流事業	121	116	▲5	▲4.3
その他	206	110	▲96	▲46.5
営業利益	246	233	▲12	▲5.2
水産事業	112	173	60	53.9
食品事業	134	93	▲40	▲30.2
ファインケミカル事業	30	18	▲12	▲40.3
物流事業	17	13	▲4	▲23.0
その他	8	5	▲3	▲37.4
全社経費	▲57	▲70	▲13	24.0
経常利益	293	259	▲33	▲11.5
親会社株主に帰属する四半期純利益	166	185	19	12.0

2023年3月期 第3四半期 主な営業利益増減要因(前年同期比)

水産が大幅増益だが食品とファインケミカルをカバーしきれず減益も、11月に想定した減益幅より好転。コーポレートブランド浸透コストやシステム投資で全社経費は増加。



2023年3月期 第3四半期 連結貸借対照表(前期末比)

価格上昇や円安による換算の影響(約330億円)もあり主として流動資産が増加。

()内の数字は前期末比増減

(単位:億円)

<table border="1"> <tr> <td>流動資産</td> <td>3,253</td> <td>(+602)</td> </tr> <tr> <td>現金及び預金</td> <td>85</td> <td>(▲52)</td> </tr> <tr> <td>受取手形及び売掛金</td> <td>1,154</td> <td>(+251)</td> </tr> <tr> <td>棚卸資産(在庫)</td> <td>1,787</td> <td>(+346)</td> </tr> </table>	流動資産	3,253	(+602)	現金及び預金	85	(▲52)	受取手形及び売掛金	1,154	(+251)	棚卸資産(在庫)	1,787	(+346)	<table border="1"> <tr> <td>流動負債</td> <td>2,269</td> <td>(+491)</td> </tr> <tr> <td>支払手形及び買掛金</td> <td>535</td> <td>(+32)</td> </tr> <tr> <td>短期借入金</td> <td>1,250</td> <td>(+418)</td> </tr> <tr> <td>未払費用</td> <td>322</td> <td>(+70)</td> </tr> </table>	流動負債	2,269	(+491)	支払手形及び買掛金	535	(+32)	短期借入金	1,250	(+418)	未払費用	322	(+70)
流動資産	3,253	(+602)																							
現金及び預金	85	(▲52)																							
受取手形及び売掛金	1,154	(+251)																							
棚卸資産(在庫)	1,787	(+346)																							
流動負債	2,269	(+491)																							
支払手形及び買掛金	535	(+32)																							
短期借入金	1,250	(+418)																							
未払費用	322	(+70)																							
<table border="1"> <tr> <td>固定資産</td> <td>2,464</td> <td>(+58)</td> </tr> <tr> <td>有形固定資産</td> <td>1,498</td> <td>(+44)</td> </tr> <tr> <td>無形固定資産</td> <td>135</td> <td>(+22)</td> </tr> <tr> <td>投資その他の資産</td> <td>830</td> <td>(▲9)</td> </tr> </table>	固定資産	2,464	(+58)	有形固定資産	1,498	(+44)	無形固定資産	135	(+22)	投資その他の資産	830	(▲9)	<table border="1"> <tr> <td>固定負債</td> <td>1,215</td> <td>(+22)</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td>949</td> <td>(+0)</td> </tr> </table>	固定負債	1,215	(+22)	長期借入金	949	(+0)						
固定資産	2,464	(+58)																							
有形固定資産	1,498	(+44)																							
無形固定資産	135	(+22)																							
投資その他の資産	830	(▲9)																							
固定負債	1,215	(+22)																							
長期借入金	949	(+0)																							
<table border="1"> <tr> <td>総資産</td> <td>5,717</td> <td>(+660)</td> </tr> </table>	総資産	5,717	(+660)	<table border="1"> <tr> <td>純資産</td> <td>2,232</td> <td>(+146)</td> </tr> <tr> <td>自己資本</td> <td>2,193</td> <td>(+295)</td> </tr> <tr> <td>自己資本比率</td> <td colspan="2">'22/3 37.5% ⇒ '22/12 38.4%</td> </tr> </table>	純資産	2,232	(+146)	自己資本	2,193	(+295)	自己資本比率	'22/3 37.5% ⇒ '22/12 38.4%													
総資産	5,717	(+660)																							
純資産	2,232	(+146)																							
自己資本	2,193	(+295)																							
自己資本比率	'22/3 37.5% ⇒ '22/12 38.4%																								

2023年3月期 第3四半期 連結キャッシュフロー(前年同期比)

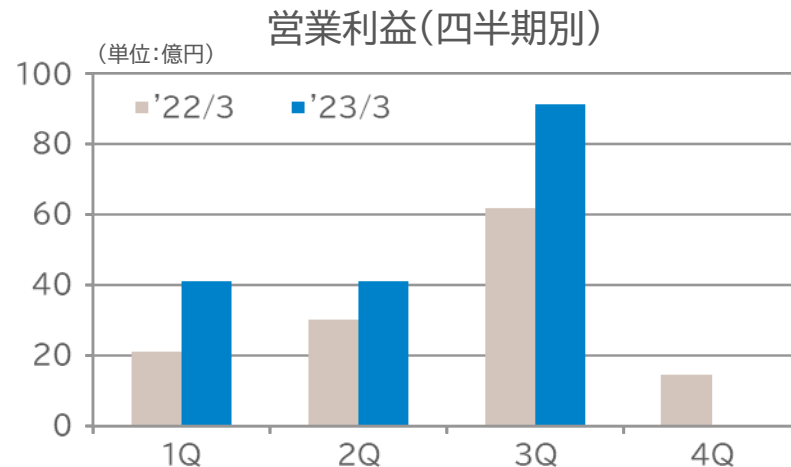
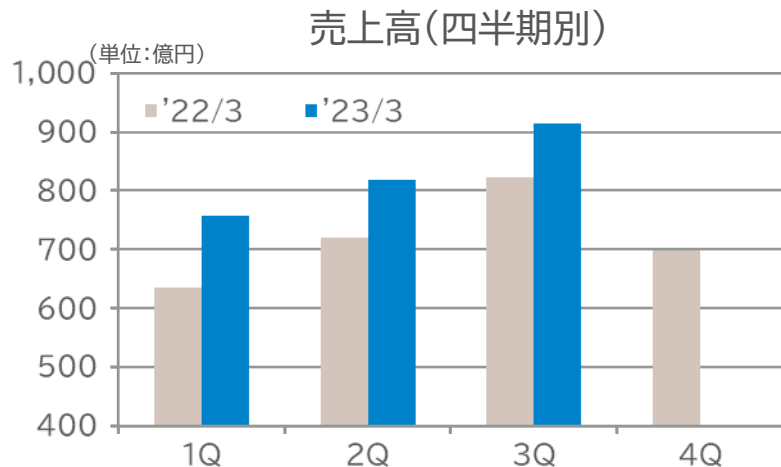
人流回復に伴う活動量増で運転資本が増加し営業CFはマイナス。

(単位: 億円)	2022年3月期 第3四半期	2023年3月期 第3四半期	増減
・税金等調整前当四半期純利益	247	261	14
・減価償却費(のれん償却含む)	147	149	2
・運転資本	▲ 219	▲ 436	▲ 216
・法人税等の支払額	▲ 76	▲ 113	▲ 37
・その他	▲ 6	▲ 20	▲ 13
営業活動によるCF	91	▲ 159	▲ 250
・設備投資額(固定資産取得額)	▲ 133	▲ 159	▲ 26
・その他	0	▲ 8	▲ 8
投資活動によるCF	▲ 132	▲ 168	▲ 35
・短期借入金の増減額	156	366	209
・長期借入金の増減額	▲ 31	▲ 9	22
・その他	▲ 47	▲ 61	▲ 14
財務活動によるCF	78	297	218
現金及び現金同等物の期末残高	186	135	

2023年3月期 第3四半期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

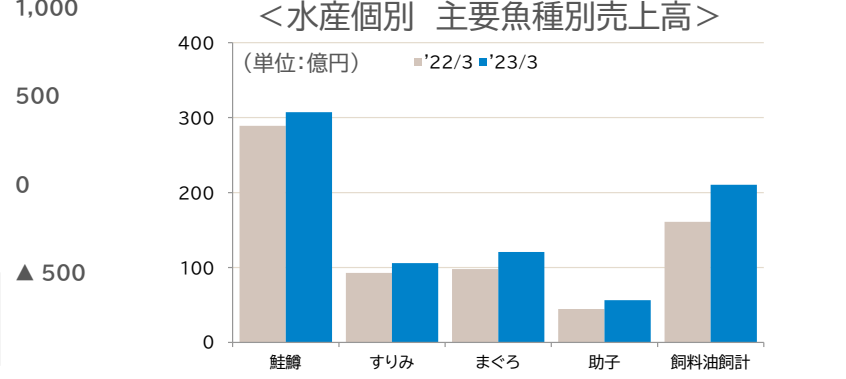
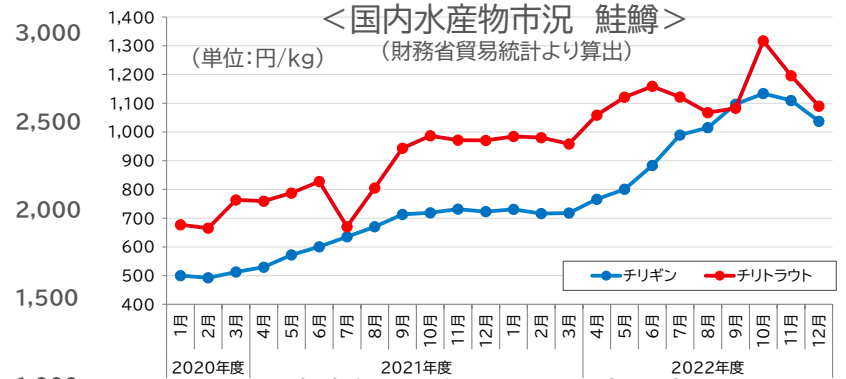
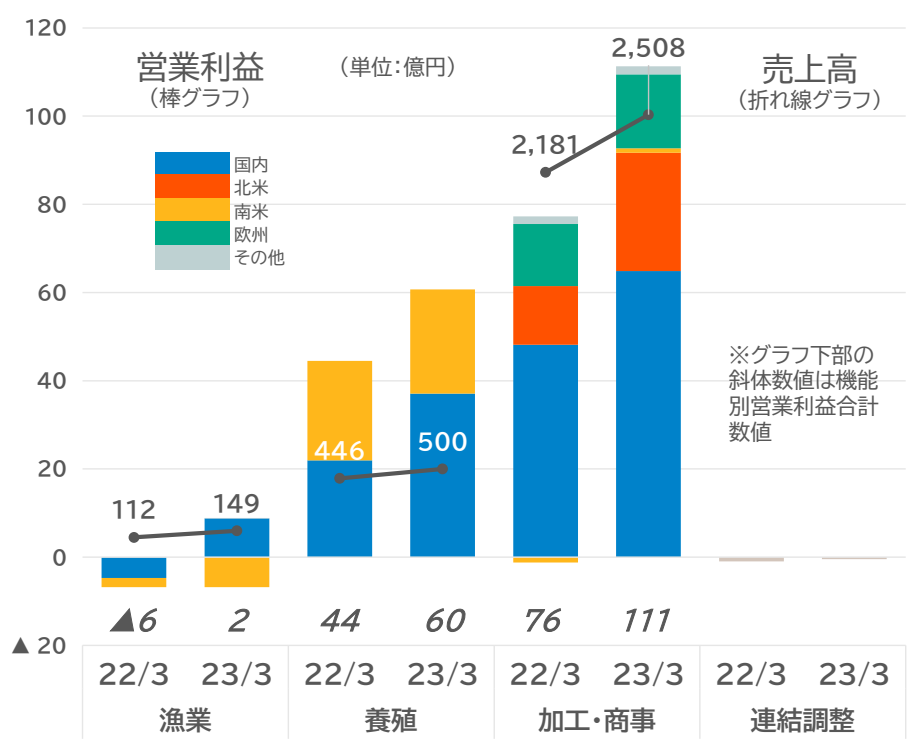
販売堅調に加え国内養殖事業の改善もあり大幅な増収増益を実現。

(単位:億円)	2022年3月期 第3四半期	2023年3月期 第3四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	2,179	2,488	309	14.2
営業利益	112	173	60	53.9



2023年3月期 第3四半期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

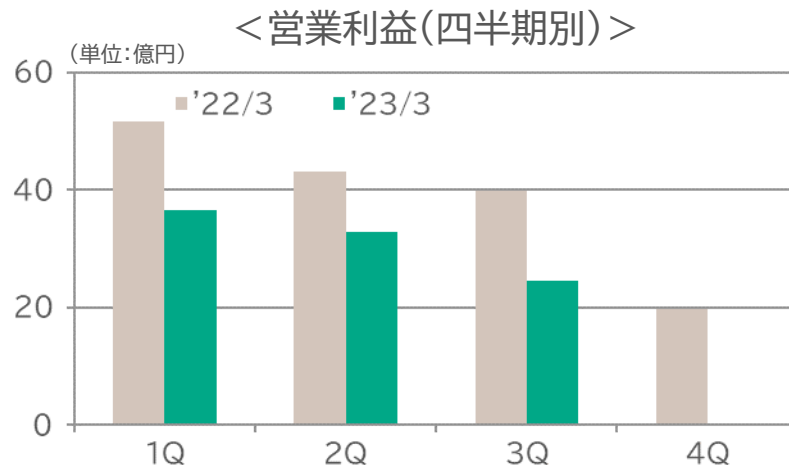
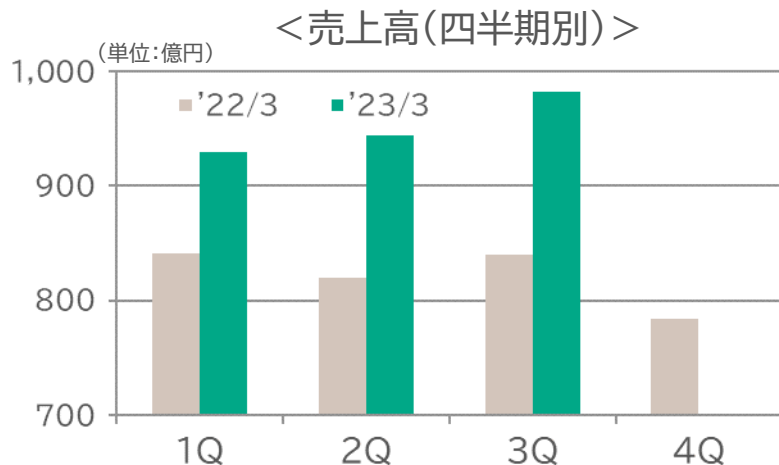
- ・加工商事は、販売好調なうえ北米での経費削減などもあり大幅増益。
- ・養殖はぶりの安定供給や銀鮭の拡大に加え、まぐろや南米鮭鱒が回復。



2023年3月期 第3四半期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

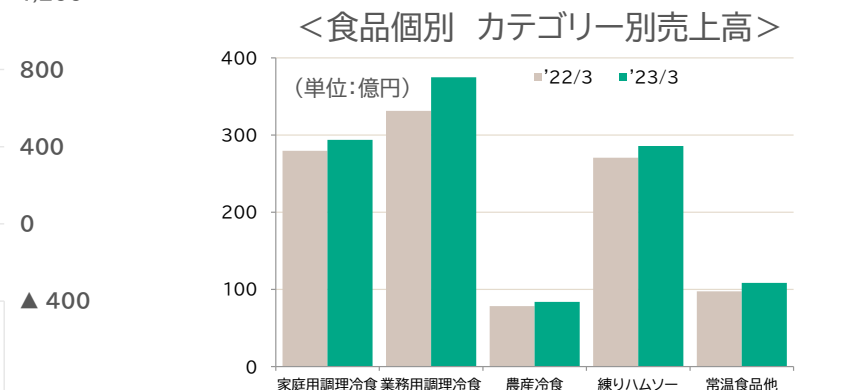
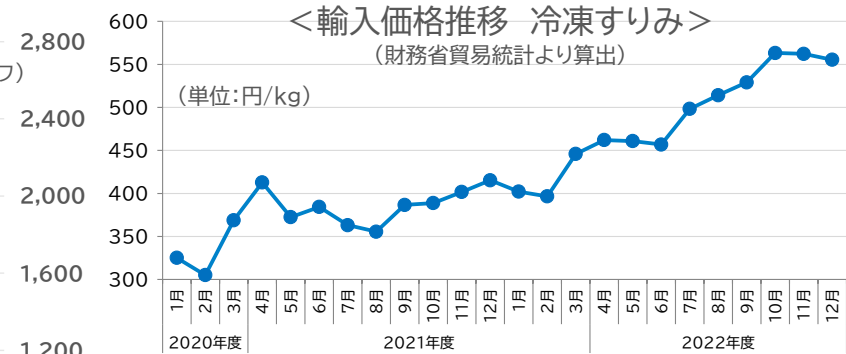
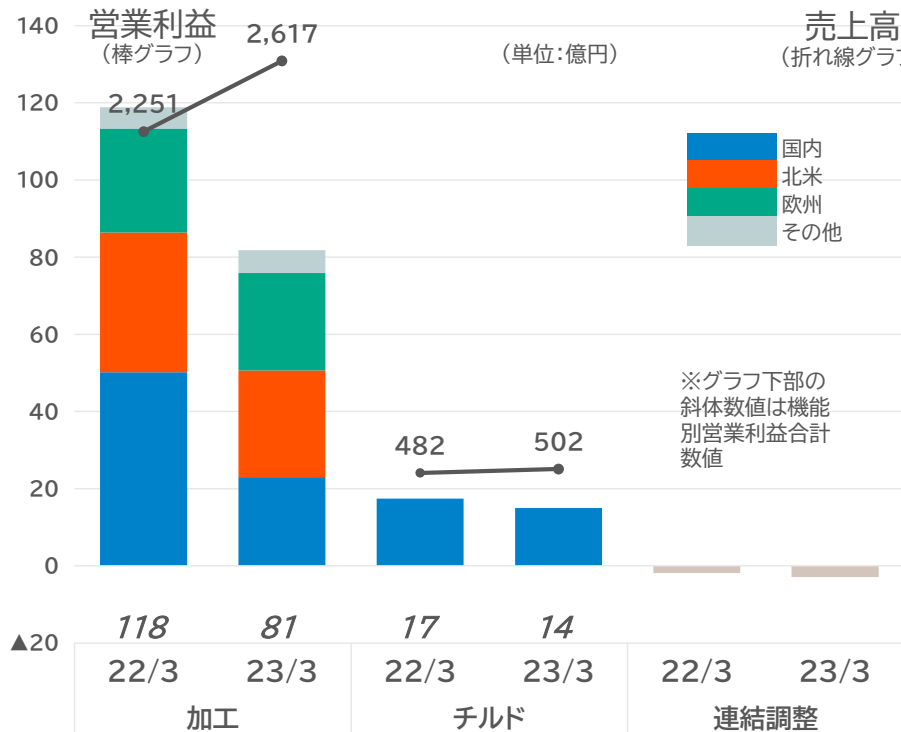
- ・欧州のエリア拡大や米国での家庭用えび商品の拡大に加え、値上げや円安の影響もあり増収。
- ・原材料・エネルギーコスト上昇や急激な為替変動に対し値上げが追いつかず減益。

(単位:億円)	2022年3月期 第3四半期	2023年3月期 第3四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	2,501	2,855	354	14.2
営業利益	134	93	▲40	▲30.2



2023年3月期 第3四半期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

- ・北米は家庭用で値上げ後も販売好調を維持。一方、業務用のQSR向け販売は苦戦。
- ・日本はコスト上昇に値上げが追いつかず苦戦も、業務用は人流回復を受け増収。



2023年3月期 第3四半期 ファインケミカル事業 売上高・営業利益(前年同期比)

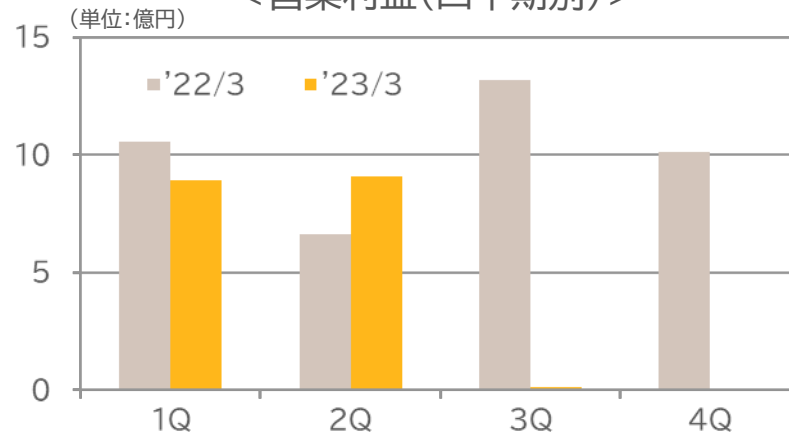
■ 日水製薬売却(9月)による影響に加え、医薬原料の米国向け輸出が中断したこともあり減収減益。

(単位:億円)	2022年3月期 第3四半期	2023年3月期 第3四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	243	212	▲31	▲12.9
営業利益	30	18	▲12	▲40.3

<売上高(四半期別)>



<営業利益(四半期別)>

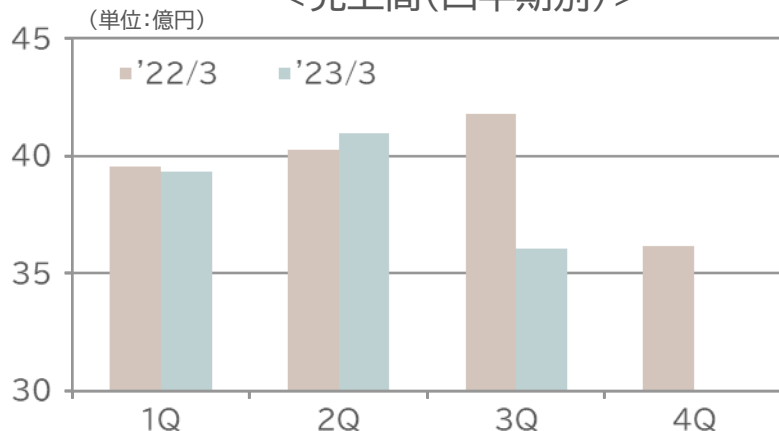


2023年3月期 第3四半期 物流事業 売上高・営業利益(前年同期比)

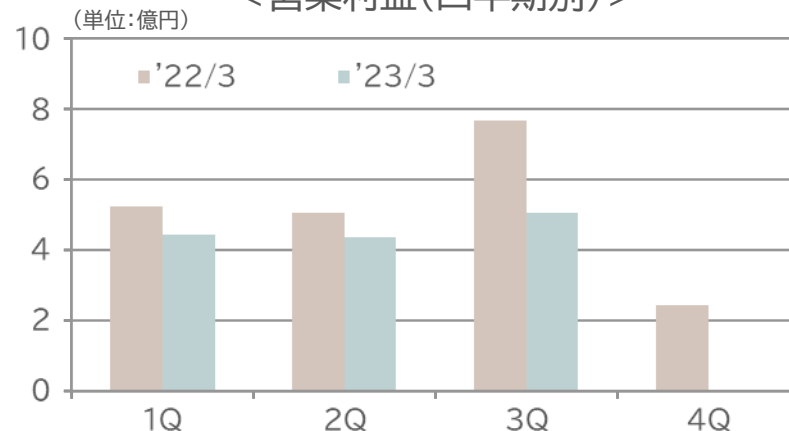
通関事業が堅調に推移するも、荷動き低調による入在庫料収入の減少や電力料他コストアップの影響で減収減益。

(単位:億円)	2022年3月期 第3四半期	2023年3月期 第3四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	121	116	▲5	▲4.3
営業利益	17	13	▲4	▲23.0

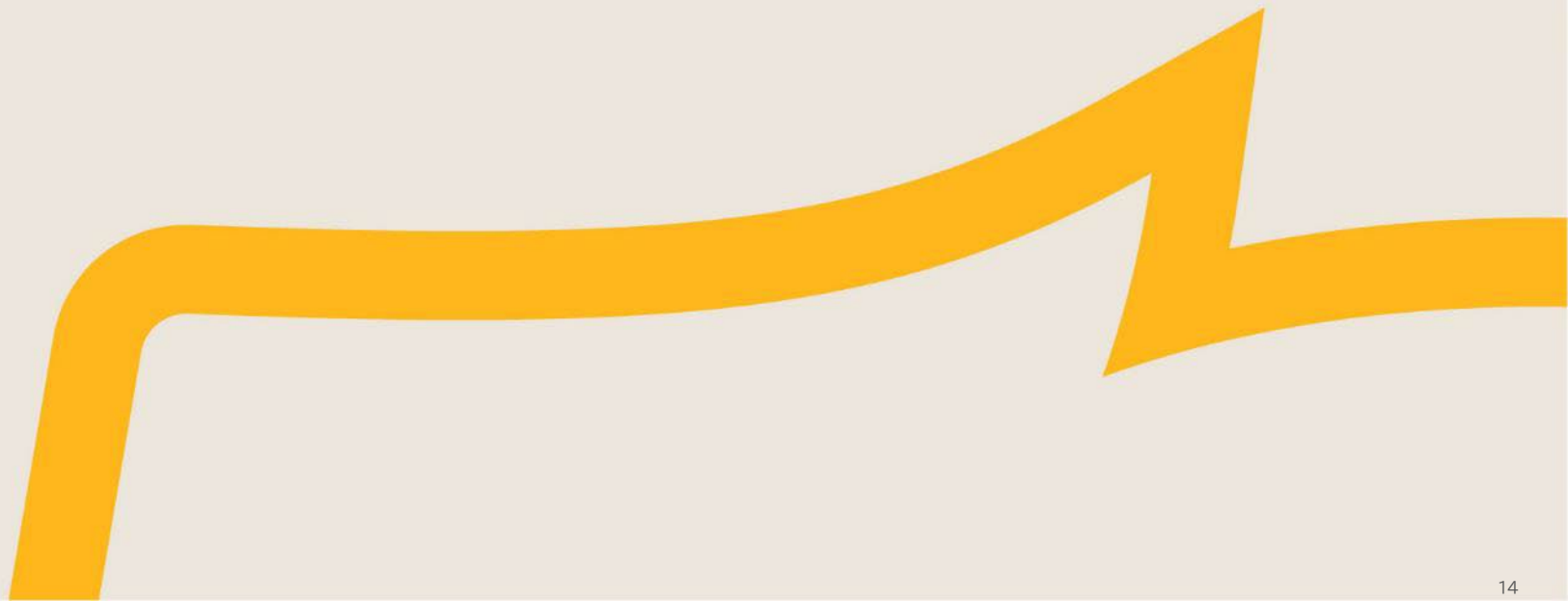
<売上高(四半期別)>



<営業利益(四半期別)>



今後の見通し・取組み



水産市況の動向に警戒感を持って、在庫マネジメントを徹底する。

▶ 22年度の現状

<国内>

- 一 市場全体で養殖ぶりの供給が少ない中、完全養殖ぶりの強みを活かし安定供給を実現。
- 一 岩手県大槌町での銀鮭養殖を事業化し、販売数量増加。



<海外>

- 一 (南米)銀鮭の生残率改善に加え販売価格が堅調に推移し、生簀繰りによる水揚数量減少や飼料等のコスト上昇をカバー。
- 一 (北米)すけそうだらの漁獲枠減少や人件費上昇などのマイナス要素はあるも、歩留まり改善に加え、販売価格上昇や償却負担・コロナ対策費用の減少などにより増益。

▶ 今後のポイント

<国内>

- 一 市況変動への対応力を上げるため、
 - ・在庫マネジメント徹底
 - ・養殖事業の拡大・安定化と食材化率アップを更に進め、市況変動に強い体質へ。
- 一 えび陸上養殖の事業化を加速する。

<海外>

- 一 (南米)フィレ(主に米国向け)製造ライン自動化により省人化する人員をより付加価値の高い生食(日本向け)製造ラインに振り向ける。
 - 高付加価値品の増産と販売拡大で収益力アップ。
- 一 (南米)飼料サイロを増設。複数の飼料を組み合わせることが可能になり、飼料配合の調整と最適化でコストダウンを図る。

苦戦する南米漁業事業で減損を実施。

- 漁獲生産の減少や燃油・資機材経費の高騰などにより3期連続で営業損失。
- 引き続き厳しい事業環境が見込まれ、固定資産の減損損失約18億円を計上。



▶ 今後の打ち手

- 修繕費・資機材等のコスト絞り込み
 - ・法定検査や必要最小限の修繕のみ実施していく
 - ・管理費削減や在庫の整理を進める
- 網口を広げる改良により漁獲量を増やし、漁業効率を上げる。
- 最適なメルルーサ漁獲枠の購入。

▶ 南米漁撈事業の位置づけ

1978年に設立して以降、
ニッスイグループに白身魚を供給している。

チリ漁業法(工船参入制限)の規制下で、チリ海域での工船の新規参入が禁止されており、同社船の権益を保有しながら南米の漁業拠点として、水産資源の持続性を保った漁業を継続していく。

今後の打ち手・取組み：食品事業

北米の商品カテゴリー・欧州の販売エリア拡大を進めるとともに、個食・簡便、健康ニーズに合った商品の開発・販売力強化に取り組む。国内はアイテム削減、受注・生産オペレーションコストの削減などの効率化を急ぐ。

▶ 22年度の現状

<国内>

- 日本では原材料他コストアップ・円安に値上げが追いつかず苦戦。業務用は人流回復とともに回復傾向。

<海外>

- (北米)家庭用で値上げ後も販売好調を維持するも、業務用のQSR向け販売が減少。
- (欧州)エネルギーコストの急激な上昇で苦戦。
- (欧州)フランスで加工工場(ケラナ社)を買収し、需要拡大に対応中。
- (欧州)イギリスで水産品宅配会社(リーガルフィッシュ社)を買収し、水産宅配事業に参入。

▶ 今後のポイント

<国内>

- Eコマースや宅配事業の販売強化。常温食品事業を再編。
- 健康領域商品・キューディッシュの拡大。

<海外>

- (北米)商品カテゴリーの拡大
 - ・アジア商材を米国主流マーケットへ展開
 - ・生産量拡大に向け能力増強やM&Aを検討
- (欧州)販売エリアの拡大に向けた供給能力強化
 - ・(フランス)ケラナ社加工工場の生産能力アップ(約1.5倍)
 - ・(イギリス)冷凍機能力増強など生産ラインを整備し、販売を増強する。



キューディッシュ商品のイメージ

今後の打ち手・取組み : 健康に配慮した商品の拡大

素材の機能性と生産技術を融合し、健やかな生活を応援する商品の展開を進める。

国内	
<p>速筋タンパク</p>  <p>速筋タンパクを手軽に摂取できるバータイプ商品</p>	<p>減塩</p>  <p>塩分を30%カットした冷凍副菜</p>
<p>2つの要素を組み合わせたフィッシュソーセージ</p>	
<p>機能性表示食品</p>  <p>記憶力維持をサポートするDHAゼリー</p>	<p>代替タンパク</p>  <p>スケソウダラが主原料のハンバーグ</p>

海外	
<p>脂質50%減</p>  <p>(米国) 脂質を半分に抑えたフライ商品</p>	<p>代替タンパク</p>  <p>(欧州) 需要が高まる代替たんぱく製品</p>

コストアップ・値上げ 年間見通し

国内外で値上げを実施するも、コストアップが想定を超えるスピードで進行。

2021年前期比		日本		北米		欧州		アジア		合計	
コストアップ	原料コスト	▲108	億円	▲101	億円	▲43	億円	▲1	億円	▲255	億円
	物流・電力料・他	▲16	億円	▲12	億円	▲22	億円	▲1	億円	▲53	億円
	合計	▲125	億円	▲114	億円	▲66	億円	▲3	億円	▲309	億円
	(前回見通し)	(▲131)	億円	(▲89)	億円	(▲61)	億円	(▲3)	億円	(▲284)	億円
値上げ効果・販売増力 他		84	億円	110	億円	64	億円	1	億円	260	億円
(前回見通し)		(95)	億円	(83)	億円	(54)	億円	(2)	億円	(236)	億円
コストアップ影響額		▲40	億円	▲4	億円	▲2	億円	▲1	億円	▲49	億円
(前回見通し)		(▲35)	億円	(▲5)	億円	(▲6)	億円	(▲0)	億円	(▲48)	億円

今後の値上げ実施状況

国内： 2月～ 家庭用冷食・業務用冷食、 3月～ 練り・ハムソーセージ・常温食品

海外： 昨年10月～ 北米業務用(一部)、欧州冷食・チルド

欧米への医薬原料販売の拡大に向け、生産・販売の両面で体制を整える。

▶ 今後のポイント

<医薬原料>

- 欧州への展開に向けたEMA(欧州医薬品庁)への申請と品質保証体制の強化を進める。

<機能性原料>

- 原料調達が多様化や原料規格厳格化要請などの、マーケットからの品質要求に対応していく。
→ スペインでMSC原料の調達先との取引をスタート
- 価格転嫁を進めることで、収益力向上に努める。

<機能性食品・通販・他>

- DHA・EPA由来商品を中心に、さらなる商品展開を進める。

DHA系商品(脳機能)届出表示:

本品にはEPA・DHAが含まれます。EPA・DHAには、中高年の方の加齢に伴い低下する、認知機能の一部である記憶力を維持することが報告されています。

※記憶力とは、一時的に物事を記憶し、思い出す力をいいます。



2022年11月発売の
DHAゼリー
機能性表示食品
(脳機能)



DHA・EPAドリンク
を発売予定
(※写真はイメージ)

体制強化がポイント。

- 伸長しているマーケット(ECマース・宅配など)への販売を強化するため部を独立。

(1部4課 ⇒ 2部2課 体制に)



- 常温食品事業部を廃止、販売機能は既存の販売部署に集約する。

- 新たに商品課を設置し、冷凍ペットフード、冷凍幼児食等、新たな販売チャネルの開拓を促進する。



- 国内の海外事業推進部門を再編し、「グローバル戦略の企画立案」「販売推進」の機能に分割。
日本からの輸出を拡大・促進していく。



- 試験養殖を進めている バナメイエビの陸上養殖の事業化を加速するため、研究ベースから事業ベースに位置づけることで、将来的な事業展開に向けた市場分析や収支明確化などに取り組む。



顕娃実証試験施設
バナメイエビ閉鎖循環式養殖

サステナビリティ：生物多様性への取組み

自然資本(特に水産資源)への依存度が高いニッスイグループは、生物多様性の取組みに今後も積極的に取り組んでいく。

▶ これまでの取組み

- ・取扱水産物の資源状態調査の実施(2017年、2020年)と課題魚種への対応
- ・SeaBOSに参画(2016年～)し、海洋環境および海洋資源の保全と持続的な資源利用
- ・海洋プラスチック問題への対応(漁具の流出防止対策、容器包装におけるプラスチック削減)
- ・養殖における抗菌剤の使用削減

などに取り組んでいます。

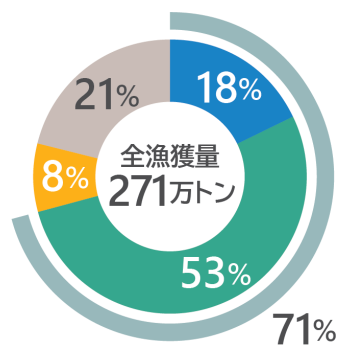
サステナブルな水産資源アクセスは当社グループの強みであり、価値創造の源泉。
事業活動が自然へ与える影響と課題に対して積極的に取組み、企業価値向上につなげて参ります。

▶ 水産資源の持続的な利用

ニッスイグループが取り扱う天然魚の資源分析を第3者に委託し、管理状態の評価を受ける。

今後も定期的な調査を行い、持続可能な漁業からの調達割合の増加に努める。

⇒ 第3回資源調査を2023年に実施、2024年に発表予定



4段階の評価

■ Well Managed(優れた管理)

■ Managed(管理)

■ Needs Improvement(要改善)

■ Not Scored(スコア欠損)

2019年の第3者による
資源管理状態の評価結果

▶ SeaBOSへ2016年から参画

SeaBOS・・・海洋環境および海洋資源の保全と持続的な資源利用を進めるイニシアティブ。

世界の主要水産関連企業10社が協働し、科学的側面からのサポートを受けて活動している。



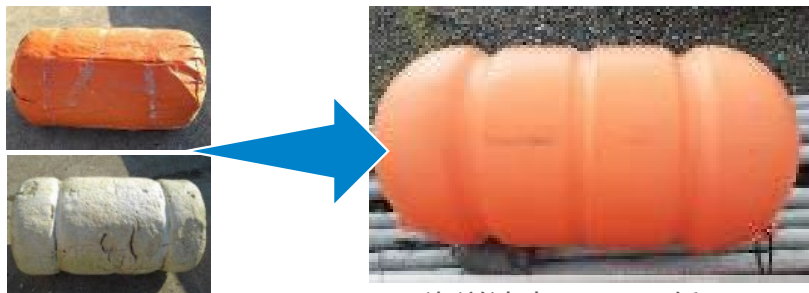
2022年10月のSeaBOS会議
(アムステルダム)の様子

▶ 海洋プラスチック問題への対応

事業全体を通してプラスチックの使用の見直しと海洋への流出防止に取り組む。

漁業・養殖業において、漁具の管理を強化するとともに、環境負荷の低い養殖フロートへ切替実施

⇒2024年度末までに完了予定



海洋流出リスクの低い
PEコーティングのフロートに順次切替


▶ 養殖魚の健康管理と抗菌剤の使用削減

グローバルな養殖基準に対応するため、養殖魚の健康を管理する独自の体制「N-AHMS」を整備。

魚病診断スキルをグループ内で標準化し、魚病の早期発見により抗菌剤投与量削減につなげる。



また、抗菌剤の使用削減に向け、当社グループに加え他社・科学者との共同で取り組んでいる。



急激なインフレや円安など
先を見通すことが難しい環境ですが、
変化への対応力を上げ、長期ビジョン
「人にも地球にもやさしい食を世界に
お届けするリーディングカンパニー
（Good Foods 2030）」
達成に向けて取組んでまいります。

見通しに関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。



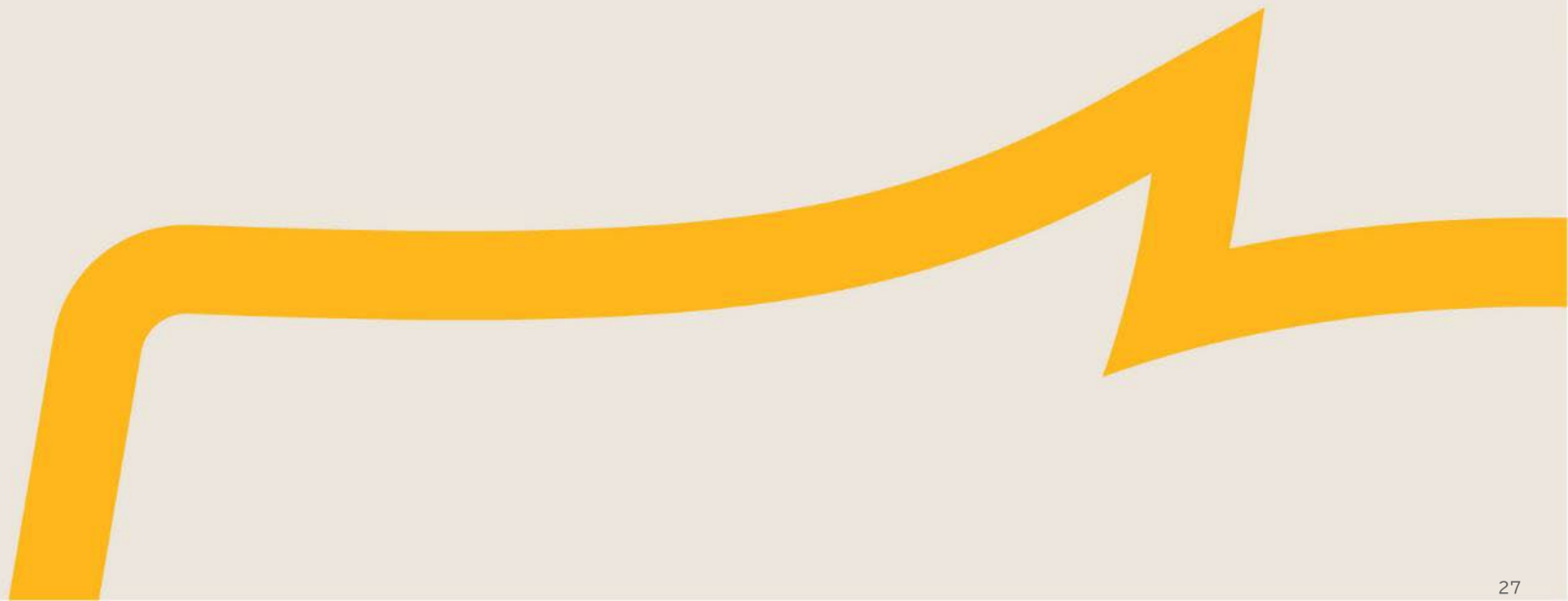
まだ見ぬ、食の力を。

株式会社ニッスイ
証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR部IR課
03-6206-7037

<https://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

参考資料



2023年3月期 第3四半期 連結損益計算書(前年同期比)

(単位:億円)	2022年3月期 第3四半期	2023年3月期 第3四半期	増減	主な増減要因
売上高	5,252	5,783	530	
売上総利益	868	920	52	
販売費・一般管理費	622	687	65	
営業利益	246	233	▲ 12	
営業外収益	58	39	▲ 18	持分法投資利益▲8、助成金収入▲14
営業外費用	11	13	2	
経常利益	293	259	▲ 33	
特別利益	15	42	27	関係会社株式売却益+34 投資有価証券売却益+3、受取保険金▲10
特別損失	61	40	▲ 20	事故関連損失+9、減損損失▲32
税金等調整前四半期純利益	247	261	14	
法人税等	62	62	▲ 0	
法人税等調整額	10	6	▲ 4	
四半期純利益	173	192	18	
非支配株主に帰属する 四半期純利益	7	6	▲ 1	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	166	185	19	

2023年3月期 第3四半期 為替換算による影響額(売上高)、為替レート (連結調整前)

主要在外会社の 為替換算レート	2022年3月期 第3四半期		2023年3月期 第3四半期		前年同期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	1,034	1,128	1,110	1,434	75	305	81	223
EUR(百万ユーロ)	268	349	304	416	36	67	48	19
DKK(百万クローネ)	2,254	394	2,727	501	473	106	83	23
その他通貨	—	194	—	238	—	44	24	20
計		2,067		2,591		524	237	286

【参考:為替レート】

※右表の為替レートは
第3四半期の平均

	2022年3月期 第3四半期	2023年3月期 第3四半期	変動率
米ドル(USD)	110.44 円	139.35 円	26.2%
ユーロ(EUR)	129.89 円	139.53 円	7.4%
デンマーククローネ (DKK)	17.46 円	18.76 円	7.4%

2023年3月期 第3四半期 セグメントマトリックス 売上高(前年同期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結計
水産事業	1,839 (174)	483 (70)	235 (60)	50 (4)	549 (107)	3,158 (417)	▲670 (▲108)	2,488 (309)
	1,664	413	175	45	442	2,741	▲561	2,179
食品事業	1,853 (104)	712 (173)		72 (19)	480 (87)	3,120 (385)	▲264 (▲30)	2,855 (354)
	1,749	539		52	393	2,734	▲233	2,501
ファイン事業	229 (▲32)			3 (▲0)		233 (▲33)	▲20 (1)	212 (▲31)
	262			4		266	▲22	243
物流事業	224 (6)					224 (6)	▲107 (▲11)	116 (▲5)
	217					217	▲96	121
その他事業	168 (▲75)			1 (▲0)		169 (▲75)	▲58 (▲20)	110 (▲96)
	243			1		245	▲38	206
仮計	4,314 (176)	1,196 (244)	235 (60)	128 (24)	1,030 (194)	6,905 (700)		
	4,138	952	175	103	835	6,205		
連結調整	▲731 (▲95)	▲126 (▲5)	▲157 (▲46)	▲90 (▲16)	▲16 (▲6)		▲1,122 (▲169)	
	▲636	▲120	▲110	▲74	▲10		▲952	
連結計	3,583 (81)	1,070 (238)	78 (14)	37 (7)	1,014 (188)			5,783 (530)
	3,501	831	64	29	825			5,252

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

2023年3月期 第3四半期 セグメントマトリックス 営業利益(前年同期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結 計	営業利益率(%)
水産事業	110 (45)	26 (13)	17 (▲1)	1 (0)	16 (2)		174 (60)	▲0 (0)	173 (60)	7.0 (1.8)
	65	13	19	1	14		113	▲0	112	5.2
食品事業	37 (▲29)	27 (▲8)		5 (0)	25 (▲1)		96 (▲39)	▲2 (▲1)	93 (▲40)	3.3 (▲2.1)
	67	36		5	26		136	▲1	134	5.4
ファイン 事業	17 (▲12)			0 (▲0)			18 (▲12)	0 (0)	18 (▲12)	8.5 (▲3.9)
	29			0			30	▲0	30	12.5
物流事業	13 (▲4)						13 (▲4)	0 (0)	13 (▲4)	11.9 (▲2.9)
	17						17	0	17	14.8
その他 事業	5 (▲1)			0 (▲0)			5 (▲1)	▲0 (▲1)	5 (▲3)	4.6 (0.7)
	6			0			6	1	8	3.9
全社経費						▲70 (▲14)	▲70 (▲14)	0 (0)	▲70 (▲13)	
						▲56	▲56	▲0	▲57	
仮計	185 (▲2)	54 (4)	17 (▲1)	8 (0)	42 (1)	▲70 (▲14)	237 (▲11)			
	187	49	19	8	40	▲56	248			
連結調整	0 (0)	▲0 (▲2)	▲0 (1)	▲0 (▲0)	▲2 (▲0)	▲0 (▲0)		▲3 (▲1)		
	▲0	2	▲1	▲0	▲2	0		▲2		
連結 計	185 (▲1)	53 (1)	17 (0)	7 (0)	39 (0)	▲70 (▲14)			233 (▲12)	4.0 (▲0.7)
	187	51	17	7	38	▲56			246	4.7

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、右肩括弧内は増減を表わす。

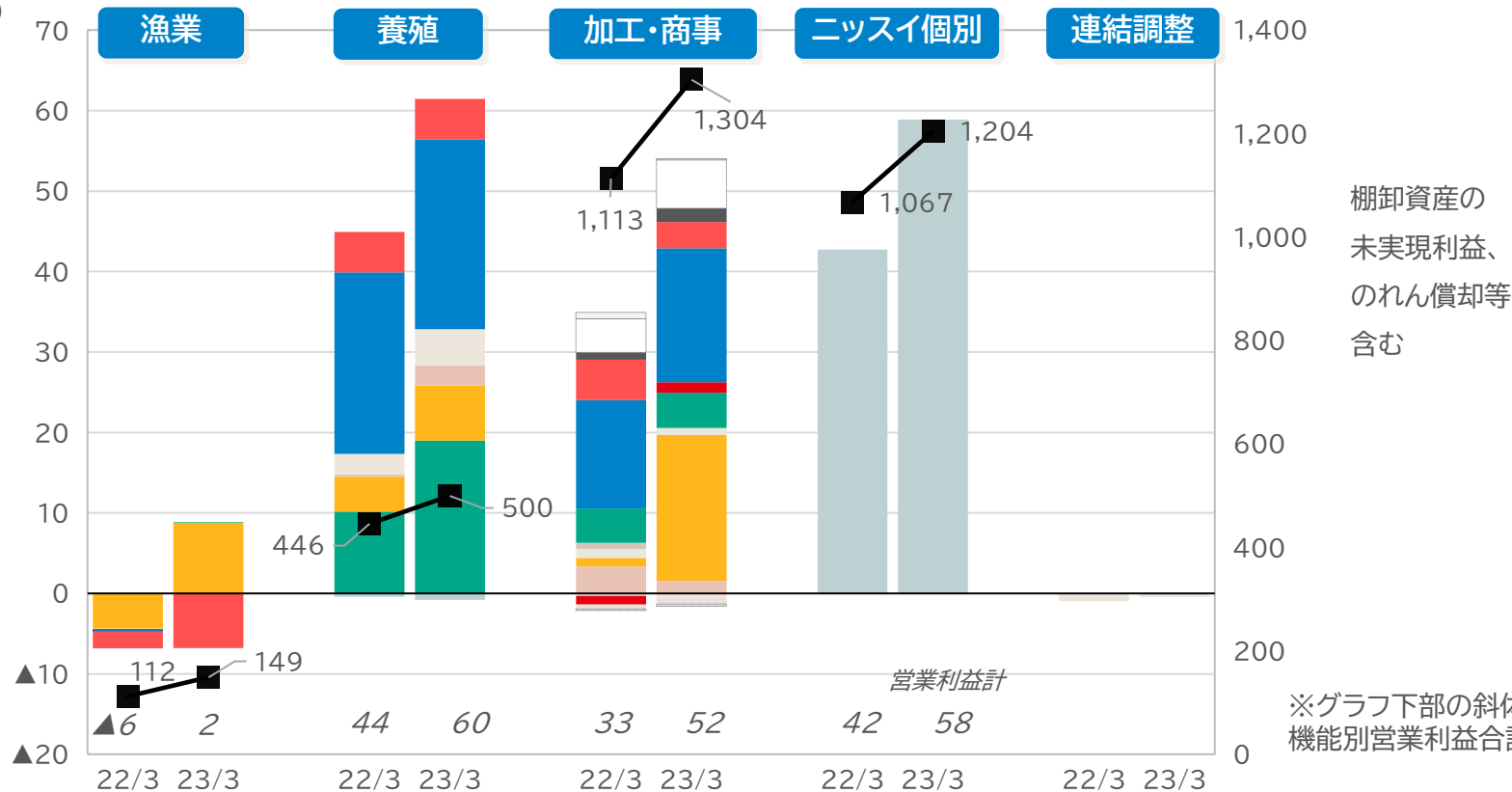
※連結調整にはのれん償却、棚卸資産の未実現利益消去等が含まれる。

2023年3月期 第3四半期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

営業利益(棒グラフ)

売上高(折れ線グラフ)

(単位:億円)



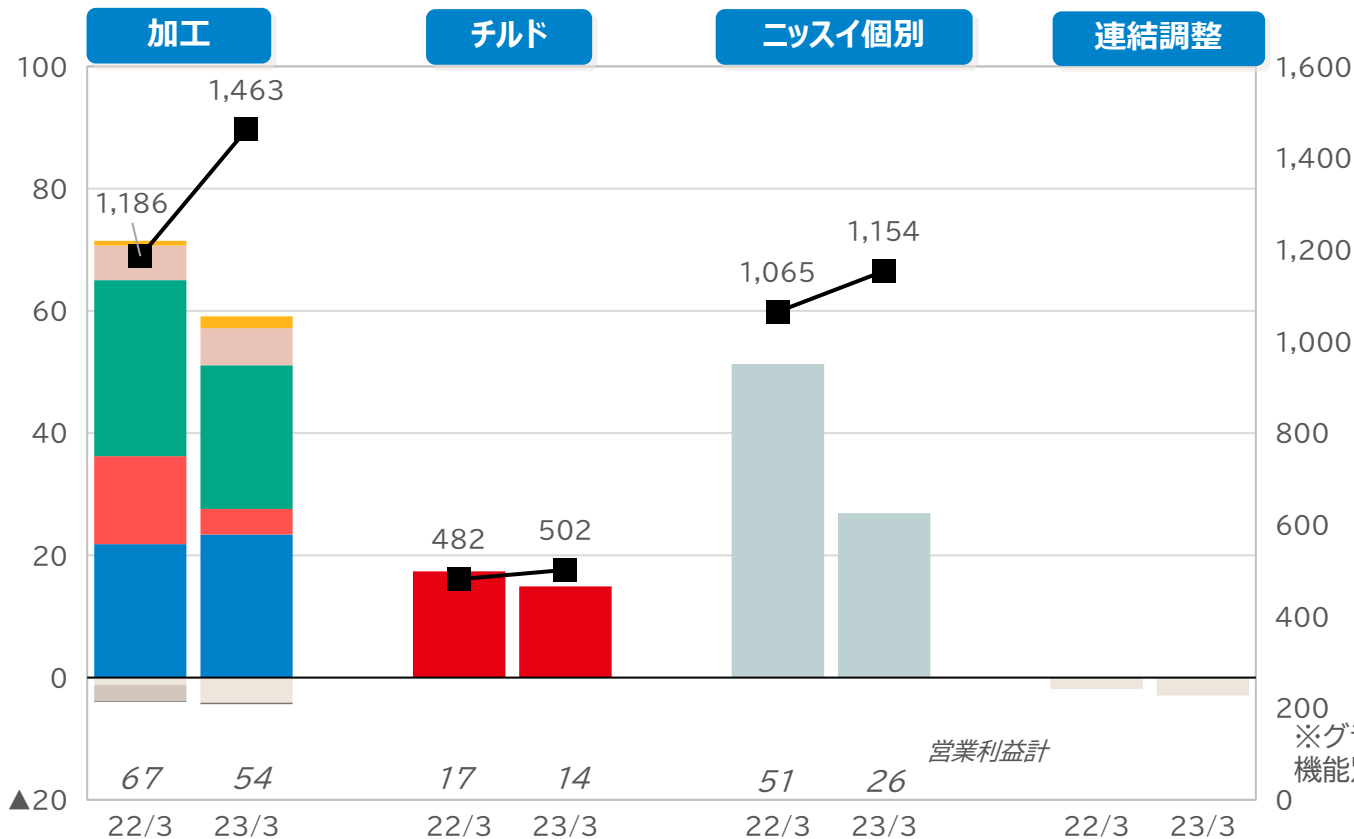
棚卸資産の
未実現利益、
のれん償却等
含む

2023年3月期 第3四半期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

営業利益(棒グラフ)

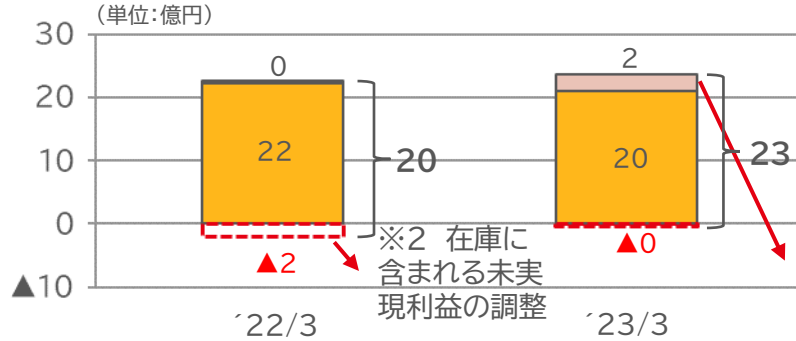
売上高(折れ線グラフ)

(単位:億円)

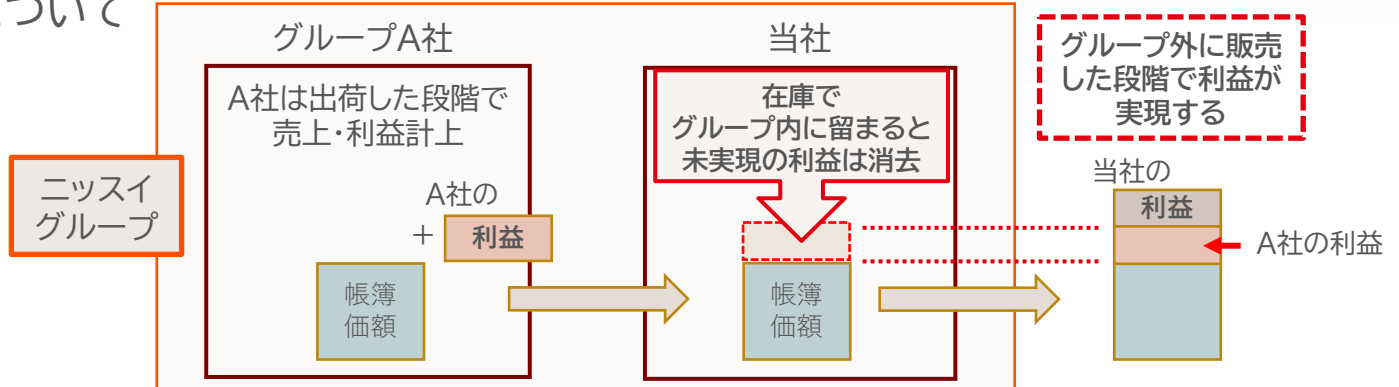


※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値

未実現利益を含めた南米養殖事業の利益は、ほぼ前年並み。



▶ 未実現利益について





まだ見ぬ、食の力を。